

ハザードマップのユニバーサルデザインに関する検討会(第4回) 議事要旨

日時: 令和4年11月29日(火) 15:30~17:30
会場: 中央合同庁舎第2号館 国土交通省 第2会議室A

<ウェブアクセシビリティ対応について>

- 国土交通省の取り組みである「重ねるハザードマップ」の音声出力対応は良い方向性である。住所入力後に音声出力する予定のテキスト内容や操作性については、障害当事者に検証を行うことが大切である。
- 国土交通省の取り組みである「重ねるハザードマップ」では、住所入力したジャストポイントが浸水せずに、周辺が浸水する場合に誤解を与える可能性があるため、周辺のリスクの伝え方も今後検討することが望ましい。
- 障害のない人と同等の情報だけでは障害のある人には足りない場合があり、例えば、車椅子で通行できない避難経路などを示していただけるなどの工夫も今後検討して欲しい。
- ウェブアクセシビリティのガイドラインへの準拠だけでなく、ハザードマップの情報が当事者に明確に伝わるかどうかを最終的な評価ポイントとして設定することが大切である。
- 障害当事者への検証を行う際には、各地域で多様な障害のある方の声が集約できているか重要である。その際には各種団体との協力が必要である。
- ハザードマップの存在を障害当事者だけでなく、支援者を含めた一般の方にも広く知ってもらうことが重要であるため、自治体でどのように周知するか検討する必要がある。また、日視連などの団体と提携していくのも一つの方法である。
- 障害当事者が防災訓練等に参加する場を創出することも非常に大切である。

<ハザードマップの「情報・学習編」の充実について>

- 事務局から提示された、「水害を知る」「リスクを知る」「対応を知る」構成は、非常にわかりやすく整理されている。
- 「行動に移す」に「リスクを知る」がどのように関連するのかが記載できると更に良いと感じた。
- 必要最低限伝えるべき情報・学習編の事務局案の文案には、以下の情報内容を追記頂くと良い。
 - ・平時の心備え
 - ・支援者への注意してほしいポイント
 - ・障害のある方へのメッセージ
 - ・情報取得のツールについて
- 解説文は、「分かりやすい点」と「どう伝わるか」の両立が大切である。
- ハザードマップは、各自治体でばらつきがある中で、情報・学習編の事務局案を基に全国で共通化されるのは良いことである。

<本検討会の骨子案について>

- 報告書前段に、「ハザードマップのユニバーサルデザイン化に取り組んでいくことになったのか」を、記載すると、更に読み手に伝わる報告書になると感じた。
- 報告書前段に「ハザードマップとは何か」について記載すると良い。
- 各種ツールには、メリットだけを強調するのではなく、デメリットも記載する。また、使い方についても記載する。
- 今後の展開に記載されている「情報の受け手側の環境の醸成」「共助や地域の力が不可欠」は、基本的な姿勢であるため、前段に記載いただきたい。
- 視覚情報に焦点を置いているが、聴覚障害などへの対応も今後の課題として記載する。
- 終わりにでは、「ハザードマップは使っていただき、行動に繋がることで存在意義がある」「状況変化に応じ、速やかに情報更新し、広く周知し、浸透させる」というような内容を記載すると良い。
- 国土交通省の各種検討会の報告書は、PDF(画像データ)のみで提供しているのが多く、視覚障害者にとってはアクセスしにくい。ため、テキストもしくはワードデータ、音声読み上げ対応等での提供により、今回の報告書自体をアクセシビリティの高い方法で情報提供を行うようにすること。

以上